

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和4年2月18日  
中国運輸局

評価対象事業名: 新型輸送サービス導入支援事業(AIオンデマンド交通の導入)

| ①補助事業者     | ②事業概要   | 補助事業者における事業評価結果  |  |  | 地方運輸局等における<br>二次評価結果   | 備考 |
|------------|---|--|--|--|--|----|
|            |   | ③事業実施の適切性  | ④目標・効果の達成状況  | ⑤事業の今後の改善点   | 評価結果   |    |
| 宇部第一交通株式会社 | AI乗合配車システムを活用した乗合タクシーによるスーパーの買い物送迎サービスを計画通り開始し、利用者は増加傾向にある。 | B<br>スーパーと連携した乗合タクシーは計画通り実施し、運行している。<br>市と連携したデマンド交通に関しては、現在も関係者と協議中である。 | A<br>【1日の運行便数(2021年度目標)】<br>目標:3便以上運行 70%、実績:運行日41日中24日達成(59%)<br>【1日の乗車合計数(2021年度目標)】<br>目標:1日20人以上 60%<br>実績:運行日41日中17日達成(41%)<br>スーパーの買い物送迎サービスは運行開始当初は週1日運行だったが現在は週3日運行となり、利用者の増加とともに運行本数も増えてきている。 | ポイントカード導入の検討や、各自治会への説明会実施など、引き続きスーパーと連携して買い物送迎サービスの告知活動を実施して利用者を増やし、1運行当りの乗合率も高めていく。<br>宇部市と連携したデマンド交通については引き続き宇部市と導入に向けて協議を進める。 | スーパーと連携してAIオンデマンド交通を導入し、業務の効率化を図るとともに、利用者ニーズに沿った運行がなされている点について評価できます。<br>今後も地域の足の確保に努められるとともに、宇部市の交通政策に沿った移動手段が確保されるよう、宇部市と連携して事業を進められることを期待します。 |    |
| 富士第一交通有限公司 | 10月よりAI乗合配車システムを活用して乗合で湯本地区と長門市市街地間を結ぶデマンド交通の運行開始した。        | A<br>湯本地区から長門市中心部を結ぶデマンド交通をAI乗合配車システムを活用して運行している。                        | B<br>【登録件数目標(2021年)】<br>目標:50件 実績:34件 計画達成率:68%<br>【月別利用件数(2021年)】<br>目標:毎月45件以上 実績:3か月中2か月達成 計画達成率:66.7%<br>AI乗合配車システムを導入したことでご自宅から目的地までのドアtoドアでの運行の配車業務を効率化できたが、目標数値を一部達成できていない部分もあった。               | 交通事業者の配車業務の効率化は実現できたが、まだ利用者が少ないため長門市と連携し、運行地域で周知活動を行い利用者を増やしていく。   | 長門市と連携してAIオンデマンド交通を導入し、業務の効率化を図ることにより、地域の移動を確保している点について評価できます。<br>今後も長門市と連携した周知活動により、一層の利用促進や利便性向上が図られることを期待します。                                 |    |

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和4年2月18日  
中国運輸局

評価対象事業名: 新型輸送サービス導入支援事業(マイクロモビリティ等の導入)

| ①補助事業者         | ②事業概要   | 補助事業者における事業評価結果  |   |   | 地方運輸局等における<br>二次評価結果  | 備考 |
|----------------|---|--|---|---|---|----|
|                |   | ③事業実施の適切性  | ④目標・効果の達成状況   | ⑤事業の今後の改善点  | 評価結果  |    |
| 株式会社ドコモ・バイクシェア | バスやタクシーの交通補完や移動手段の多様化、Co2排出の削減をめざし事業を運営しており、対前年度でのユーザー増加状況、利用回数増加状況を鑑みると、市民や来訪者へのシェアサイクル利用が浸透しており、目的に即した運営を実施できている。特に月額会員として利用されるユーザーの増加が顕著となっており、利用時間帯についても午前8時台と午後17時台でピークとなるため、通勤や通学でバスを利用されていた方がご自身の都合に合わせた自由な移動手段として市民の日常的な利用が促進されている状況が伺える。 | B<br>市民へシェアサイクル浸透に伴い、利用者および利用回数は順調に増加しており、事業は適切に運営されている状況。利用者や利用回数の増加を見越し、老朽化車両の廃棄と新規車両の追加を2022年1月に実施予定となっていたが、調達時期の遅れにより2022年3月へ後ろ倒し。なお、シェアサイクルポートの設置については、毎月計画に沿って順調に増加している。 | A<br>2021年度目標(年間平均)<br>※実績は2021年4月～2021年12月の平均値<br>【月間利用者数】<br>目標:6,200ユーザー 実績:6,223ユーザー 計画達成率:100.4%<br>【月間貸出数】<br>目標:48,500回 実績:48,155回 計画達成率:99.3% | 今後は、利用者にとって利便性が高く「いつでも・どこでも」借りて返せるサービスをめざし、広島市中心部において重点的にシェアサイクルポートを開拓・設置し、高密度化を推進することで更なる利用者の増加、利用回数の増加を図る。<br>利用者の増加により、シェアサイクルポートでの貸出可能車両の枯渇やバッテリー切れ発生が増加が懸念されるが、対応人員の増加を予定しておりサービスクオリティの維持・向上に取り組む。 | 自転車とモバイル技術を融合させたシェアサイクルを計画的に導入していくことは、公共交通の補完や、移動手段の多様化への対応、カーボンニュートラルの目標達成へ繋がっており評価できます。<br>今後もシェアサイクル利用者の利便向上を図られるとともに、広島市等自治体の街づくりや交通政策と連携したサービス提供が行われていくことを期待します。 |    |